



連携講座 ③-5【金沢大学】 一般募集 50名

◆文化資源の保全と活用～世界の文化財～

主 題 金沢大学国際文化資源学研究センターは平成23年2月に人間社会研究域に設置された新しい研究組織です。有形・無形の「文化資源」に関する総合的・多角的な研究と保護・活用法の開発を進めています。

この講座では、5名の研究員が世界各地における有形・無形の文化資源について、フィールドワークにもとづいてその成果を報告いたします。数多くの写真やビデオをもちいて、文化資源の現状について平易に解説するとともに、今後の文化資源の保護と活用法についても考えていきます。

講座番号 ③-5

時 間：午後2時～3時30分

場 所：築地社会教育会館

回 数：5回

受講料：1,500円

定 員：60名

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	9/20 (土)	トルコ絨毯にみる「伝統」の今	田村 うらら
第2回	10/11 (土)	インドネシア・バリ人の人間観・世界観	鏡味 治也
第3回	10/18 (土)	タイ・山地民ラフ族の食文化	西本 陽一
第4回	11/ 8 (土)	マンダラと密教の仏たち	森 雅秀
第5回	11/22 (土)	南インドで制作される寺院掛布に見られる「宗教的」意義	松村 恵理

講 師 紹 介

田村 うらら (たむら うらら)

金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター特任助教。博士(人間・環境学)。京都大学大学院人間・環境学研究科修了、専門は文化人類学。トルコ共和国を主なフィールドとし、経済人類学やモノ研究の視点から伝統的手工芸の現代的課題に取り組んでいる。

鏡味 治也 (かがみ はるや)

金沢大学人間社会研究域教授。博士(学術)。東京大学大学院社会学研究科博士課程中退。バリ島をはじめとするインドネシアで人類学調査を行い、その民族文化の維持継承やインドネシア国民文化の生成に関する文化人類学的研究を行っている。

西本 陽一 (にしもと よういち)

金沢大学人間社会研究域教授。博士(学術)。東京大学総合文化研究科博士後期課程中退。タイや中国の山地に暮らすラフ族を対象に文化人類学的な調査を行い、少数民族の暮らしと世界観を研究している。

森 雅秀 (もり まさひで)

金沢大学人間社会研究域教授。学術博士(Ph.D.)。ロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)大学院博士課程修了。汎アジア的な視点から、仏教文化の伝播と受容について研究を進めている。とくに、さまざまなイメージが地域や時代によって変容するときの、人々の考え方に関心を持っている。

松村 恵理 (まつむら えり)

金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター特任助教。博士(社会環境学)。金沢大学大学院人間社会環境研究科修了。文化人類学的観点から、インドを中心とした「モノ」をつくる技術やそれを保持する「ヒト」両者の相互関係を主な研究課題としている。